

広く深く豊かな文学教育をめざして

～宮川ひろの作品『びゅんびゅんごまがまわったら』を中心に

みんなで豊かに読む（3年生）～

1. 設定理由

子ども達の心を、子どもらしい、やさしさのあるものに育てるために、文学作品を全員で楽しく深く豊かに読み合いたいと考えた。文学作品を通して、様々な人物に出会い、人間理解を深め、人として何が大切かに気づいていくことができる。また、みんなと作品を読み合い、考えを交流し合うことで、感動を分かち合い作品と一緒に読む楽しさを知ることができると同時に、人間関係を深めることができると考える。

2. 研究の内容

○みんなで豊かに読むための授業のあり方を、実践を通して明らかにする。

- (1) 児童の実態把握 ①登場人物の気持ちを、ことばを大切に読む。
- (2) 作品・教材研究 ②思ったことをのびのびと発言し合い、作品への共感と友だちと読み合う楽しさを実感する。
- (3) 授業づくり ③他の宮川ひろの作品を読み、感想を交流し合う。

3. 結論

[みんなで作品を読み合う楽しさを知り、読みが深まった]

- 子ども達の実態にあった作品を選んだことで、登場人物の子ども達に共感しながら、また、校長先生の気持ちを考えながら意欲的に作品を読み進めることができた。
- 一人一人に絵本を持たせたことで、登場人物の表情の変化、様子や行動など、本文の言葉や挿絵から登場人物の思いなどに気づくことができた。
- みんなのもった感想や疑問から読みの視点をつくったり、子どもの読みをくみ取って発問したりしていくことで、意欲的に話し合いが行われ、読みを深めることにつながった。
- 工夫して、みんなで話し合いをしていくことで、友だちの発言から気づかされたり、やっぱりそれによかったと確信したり、楽しく読み深めていくことができた。

[登場人物について考えることや授業の振り返りから、周りに目を向けることができた]

- 授業終末に登場人物に向けて手紙を書いたことで、登場人物の気持ちを感じることができた。
- 授業後に振り返ることで、友だちを認める姿や、自分に生かそうという気持ちが見られた。

[子ども達にあった作品で身近な読書環境を整えることで、読書への意欲が高まった]

- 宮川ひろさんの作品を揃え、読書環境を整えたり、冊子を作ったりしたことで、作品を進んで読もうとするようになってきた。